

平成 30 年度福岡市地球温暖化対策実行計画協議会 議事録（要旨）

■日 時：平成 30 年 8 月 29 日（水）15 時 00 分～16 時 45 分

■場 所：天神NKビル A+B会議室

1. 開会

- ・委員紹介
- ・開会の挨拶

2. 議事

（1）福岡市地球温暖化対策実行計画にかかる進捗状況について

・区域施策編（温室効果ガス排出状況等について）

＜事務局より、資料 1 に基づき、温室効果ガスの排出状況等を説明＞

○委員からの主な意見

- ・二酸化炭素排出量の算定において、九州電力から供給される電気の二酸化炭素排出係数を使っているとのことであるが、九州電力以外の電気事業者から供給される電気は、排出係数も変わるはずであるため、電気事業者ごとの使用量と排出係数が把握できれば、実態に近い排出量の推計ができると思う。

・区域施策編（施策の取組状況について）

＜事務局より、資料 1 に基づき、施策の取組状況および目標達成状況等を説明＞

○委員からの主な意見

- ・福岡市は、バイオガスで水素を発生させて燃料電池自動車FCVに充填するプロジェクトに取り組んでいるが、FCVの普及が予想より遅れており、現状でも新車販売台数に占めるEV・PHV・FCV合計の割合が0.9%というところである。作った水素を、車以外にも、定置型発電機に供給するような検討をしてもよいのではないかと。
- ・当初、成果指標を定めたときに想定していなかった、電力自由化や観光客増加などの影響もあるため、別の指標の検討も必要ではないかと思う。
- ・施策の取り組みを進めていく上で、今までは緩和策が中心で、緩和策はいろんな主体がそれぞれの部門で取り組んできたが、これからは適応策の重要性が高まってくるため、想定される気候変動による変化に対して、各主体が連携を高めて取組を進めていく必要があると思う。

・事務事業編（進捗状況について）

＜事務局より、資料1に基づき、エネルギー消費状況や目標達成状況等を説明＞

○委員からの主な意見

- ・コピー用紙については、組織内において、両面印刷や2アップ印刷の推奨など手を尽くしているが、市と同様、なかなか効果が出ていない状況である。
- ・エネルギー消費量という目標は、二酸化炭素排出量と違って、取組の成果が見えやすいが、区域施策編においては、延床面積などの原単位の指標も使用しているため、事務事業編についても、エネルギー消費量の総量だけでなく、原単位による削減状況を示すことが望ましいと思う。

（2）気候変動適応法について

＜事務局より、資料2に基づき、気候変動適応法の概要に関して情報提供＞

3. 閉会